令和7年度

論田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「豊かな人間性をもち　自ら学び続ける　たくましい児童の育成」のために
主体的で対話的な学びをいかにつくり，確かな学力と豊かな表現力をどのように育むかを念頭に，授業実践に臨む。
・わかりやすい発問により、児童の考えを深める授業の実践
・認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

熊山　剛

学力向上推進員

図子　えりか

【小中連携における共通の取組】

学習のめあての提示・学習の振り返りを徹底し、授業改善に努める。

【各校の取組状況の把握について】

管理職・教員間の授業参観に加え、チェックシートを活用し、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いた児童が増えてきている。 ●学力が二極化しており、個に応じた支援が必要である。 ●長い文章を正確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で表したりすることに課題がある。 ●身に付けた知識を他の学習と関連付ける事に課題がある。	①学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 ②読書量を増やし、長い文章を正確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で表したりすることができる。 ③学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連付けることができる。	①復習プリントやドリル・タブレットを活用し、反復練習をさせる。 ②地域ボランティアの読み聞かせに加え、担任や委員会、上学年等が読み聞かせを行い、本に触れる機会を増やす。 ②読み取りプリントを全学年活用し、取り組む時間をつくる。 ②日記を1・2年生は週1回、3～6年生は週3回以上書くようにする。 ③授業をする前に教材研究を行う。 ③めあてに対する振り返りを適宜行う。	③めあてに対する望ましい振り返りを先に想定し、授業の流れを考える。	①反復練習の機会を増やすことで、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いた児童が増えた。 ②読み聞かせの機会の増加、プリントの活用、日記指導を行い、自分の考えを表現することができる児童は増えたが、読み取りにはまだ課題がある。 ③振り返り等の活動を通して既習事項と関連付けて考えられるようになった教科もあるが、まだ十分ではない。	①一人一台端末を活用し、さらに基礎・基本の徹底を行う。 ②語彙を増やすために、読書の時間の確保を徹底する。 ③事前の教材研究を、目指す児童の姿を具体的に想定して行う。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを表現することに対して苦手意識をもつ児童が減ってきている。 ●根拠を明らかにして、自分の考えを説明することに課題がある。 ●相手の意図を捉えながら聞くことに課題がある。	①自分の考えを、根拠をもって表現することができる。 ②友達の考えを聞き、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。	①根拠を元に考えをもつことができるように、発問の精選や声かけ等の支援を行う。 ②ペアやクループで解き方や考え方を説明する活動を取り入れる。 ②構造的な板書により、子どもの意見を可視化する。	①根拠を求める問い直しを増やすことにより、自分から発言できる児童を増やす。 ①話型を意識させることで、教師の支援がなくても根拠を発言できる環境をつくる。	①問い直しを増やすことにより、根拠をもって説明できる児童が増えてきたが、友達の意見に付け足す等、自分から発言することにはまだ課題がある。 ②ペアやグループ活動で様々な考えに触れる機会は増えたが、自分の考えを広めたり、深めたりすることはまだ不十分である。	①根拠をもって発言するための支援としてどのような話型が適切なのかの検討や、発問の精選について授業研究を行う。 ②考えを広めたり深めたりするために、板書やICTの活用の方法について教材研究を行い、共有する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習について、自分の言葉で振り返り、次の学びにつなげようとする児童が増えてきている。 ●自己肯定感の低さから、学習に対する意欲が低下している児童がいる。	①自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ②「自分でできた」と達成感を持ち、学ぶ楽しさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。	①単元計画を立て、単元のめあてに即した振り返りを行う機会を設定する。 ②児童の実態を把握し、一人一人に応じた課題を設定し、声かけ等の支援を行う。	①振り返りの時間を確保できるようにする。 ①個人の振り返りをクラス全体で共有し、次時への意欲へつなげる。 ②習熟した児童やグループ学習での教え合いにより、できる楽しさを味わうとともに、全体の意欲向上につながるようにする。	①振り返りを行った教科では、自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、次時の学習の計画を立てることができていた。 ②教え合いにより、達成感をもち、進んで学習に取り組む児童が増えてきた。	①②効果的だった取り組みを継続して行う。